

レイク・メイゴッグに映る 逆さアシニボイン等についての考察

今回、アシニボインへの入山までの長い道のりについては、No.7の「山旅報告書」に記載したが、帰国後、撮影した写真を改めて引き伸ばして見返したところ、現地では気付かなかったいくつかの興味深い点が見えてきたので、ここで考察してみたい。

7月6日、午前8時前。快晴無風の素晴らしい朝であった。ナブレットに向かうためレイク・メイゴッグの湖畔を通過する際、湖面に映るアシニボインを期待して、何気なく湖畔の小さな池に近寄ってみた。

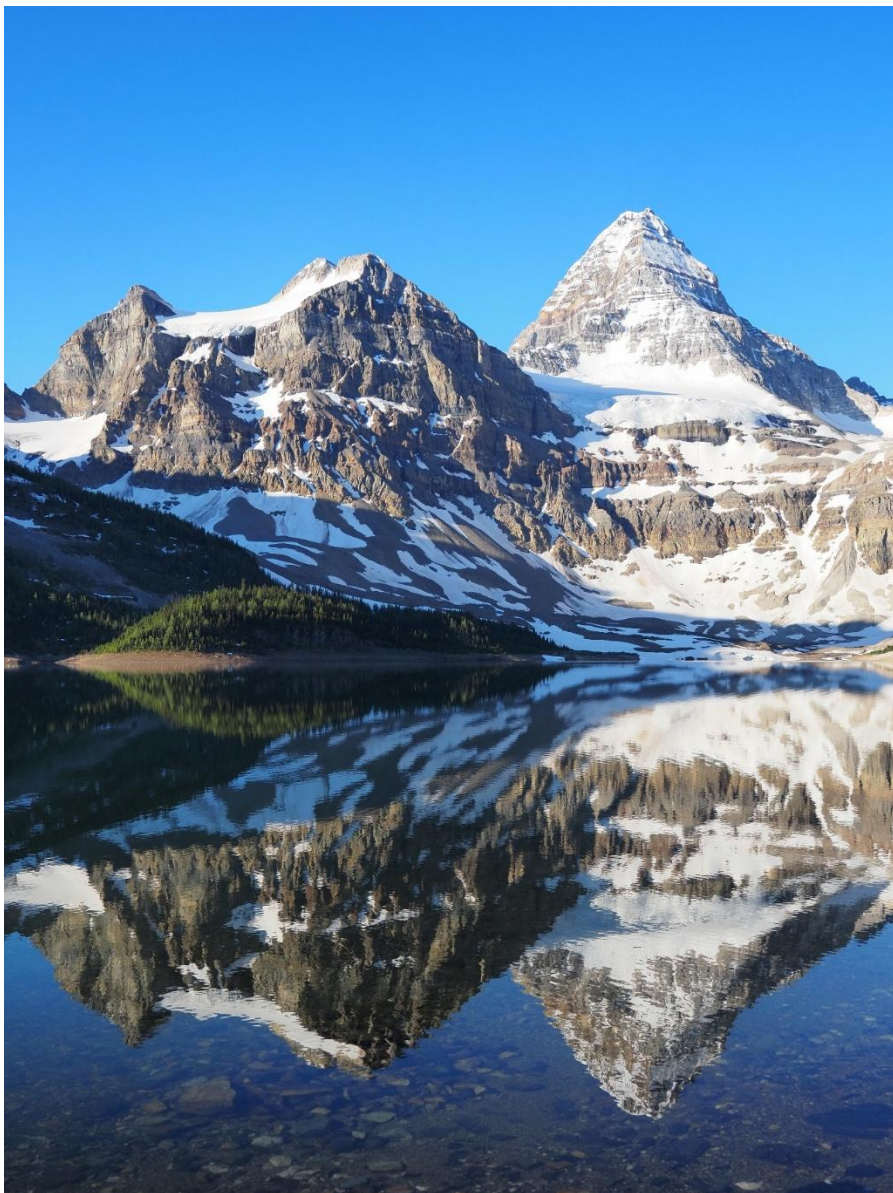
すると、広い水面には、朝の順光に照らされたアシニボインが見事に映り込んでいた。山の姿だけでなく、その下に広がる水面にも鮮明な「逆さアシニボイン」が現れ、その光景は息をのむほど素晴らしかった。今回の山旅を振り返っても、まさに最高の一場面の一つである。

翌7日も快晴で、前日とほぼ同じ時刻にヒーリー・パス・トレイルへ向かう途中、同じ場所を通った。すると、前日とほぼ同じような素晴らしい景色が再び目の前に広がっていた。

ところが、帰国後に6日と7日に撮影した写真を並べて比較してみると、興味深い違いに気付いた。7日の写真では、湖面に映る逆さアシニボインに、わずかな「揺らぎ」が見られたのである。

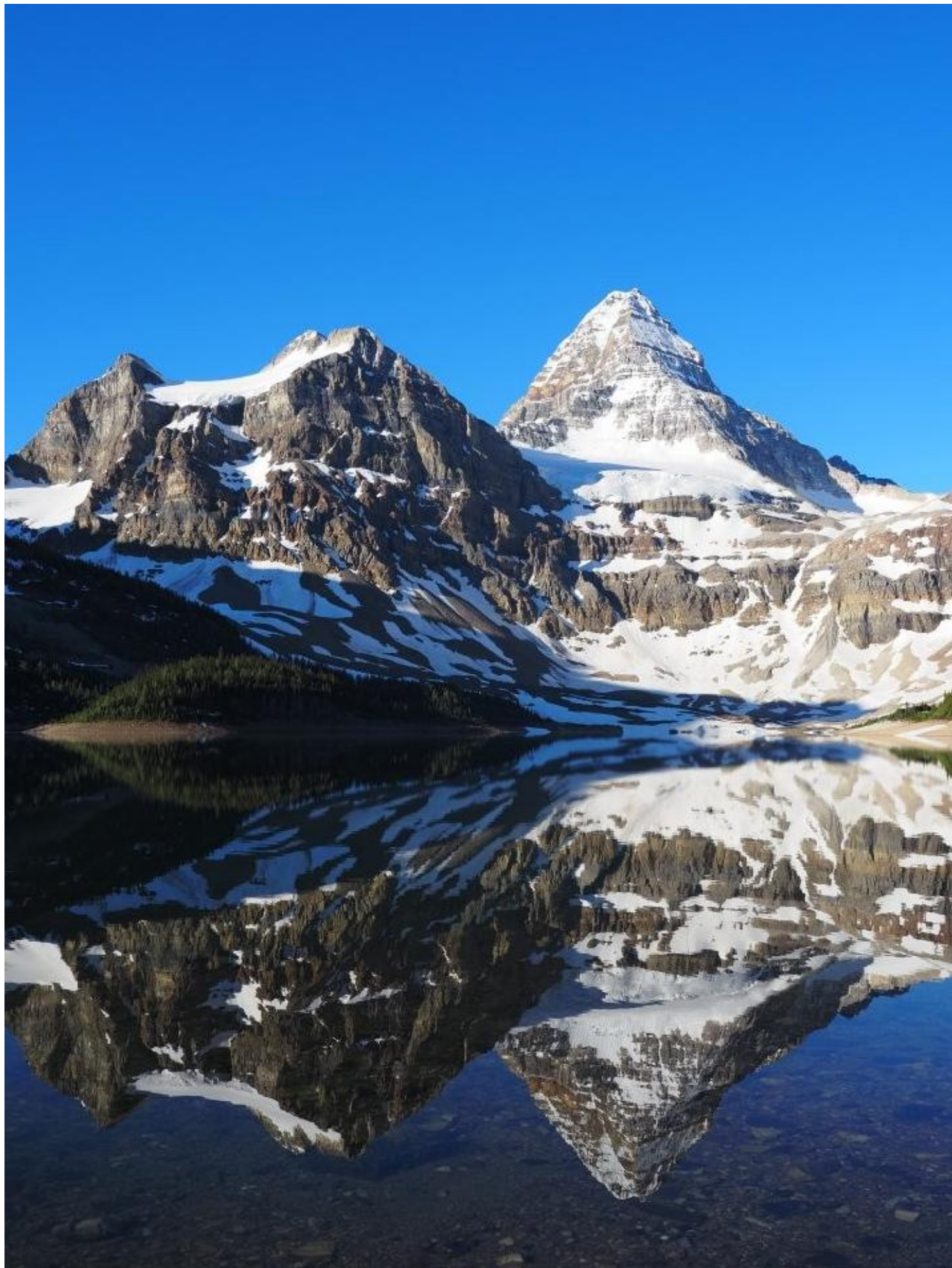
現地では7日も「快晴無風」と感じていたため、その違いには全く気付かなかった。しかし、写真を細かく観察すると、水面に映った山の輪郭が6日に比べてわずかに揺らいでいる。

おそらく、体ではほとんど感じない程度のごく弱い風が吹いていたか、あるいは水面に微細な動きが生じていた可能性が考えられる。風が強くなくても、水面が完全に静止していなければ、鏡のように映る山の姿には微妙な変化が現れることが、写真を比較することで改めて分かった。



わずかな「揺らぎ」が
確認できる

〔7月7日 撮影〕



レイク・メイゴッグに映る 逆さアスピニン [7月 6 日撮影]



小さな池に映る逆さアシニボイン [2026 年 7 月 6 日撮影]



小さな池に映る逆さアシニボイン [2012 年 8 月 12 日撮影]

小さな池に映る逆さアシニボイン

7月6日、アシニボイン・ロッジからセルリアン・レイク分岐へ向かう途中にある小さな池でも、逆さアシニボインを撮影することができた。

この場所は、14年前の2012年8月アシニボイン登頂後、12日に訪れた際にも撮影しており、当時使用していたガイドブックでも逆さアシニボインの撮影ポイントとして広く紹介されていた場所である。

2012年も天候に恵まれ、今回とほぼ同じアングルで逆さアシニボインを撮影することができた。14年という歳月を隔てて、同じ場所から同じ山を撮影できたことは、今回の再訪ならではの感慨深い出来事であった。

この池は規模が小さいため、大きな湖に比べると風の影響を受けにくく、天候が良ければ、多少の水位の変化があつたとしても、比較的安定してこのような逆さアシニボインを撮影できるものと思われる。

また、2012年はデジタルカメラのファインダーを覗いて撮影したのに対し、今回はOM-5 Mark IIのタッチパネル式モニターを活用し、カメラを池の水面すれすれまで低く構えて撮影した。そのため、14年前の写真とは撮影位置や構図に多少の違いが生じている。

それでも、14年前と今回の写真を並べてみると、同じ池に映るアシニボインの姿を比較することができ、長い年月を経て再び同じ場所に立ったことを実感させてくれる。

レイク・メイゴッグでの「逆さアシニボイン」

レイク・メイゴッグでは、湖面いっぱい広がるアシニボインと、その水面に映し出された逆さアシニボインを目の前にして、夢中になってシャッターを切った。

その時は、ただ「素晴らしい景色だ」と感じて写真を撮っていただけだった。しかし、帰国後に写真をじっくり見返してみると、6日と7日では水面の状態に微妙な違いがあることが分かった。

特に6日の写真では、山の姿が水面に非常に鮮明に映り込み、まるで鏡に映したかのような「逆さアシニボイン」となっている。一方、7日の写真では、わずかな揺らぎが確認できる。

このことから、湖面に山が鮮明に映るためには、天候だけでなく、風の強さ、水面の状態、光の当たり方、撮影する時間帯など、いくつもの条件が重なる必要があることが分かる。

現地では、目の前に広がるあまりにも素晴らしい絶景に圧倒され、そうした細かな違いに気付く余裕はなかった。しかし、写真を後から見返すことで、その時には見えなかった自然の微妙な変化に気付くことができた。

現在のアシニボインへの入山については、No.7の「山旅報告書」でも述べたように、アシニボイン・ロッジはもちろん、ナイセツ・ハットやレイク・メイゴッグ・キャンプ場も予約が容易ではない。

カナディアンロッキーでは観光客の増加に伴い、人気エリアの入場や宿泊、シャトルなどの事前予約が必要となるケースが増えており、アシニボインも例外ではない。14年前には比較的容易に訪れることができた場所も、現在では入山すること自体が一つのハードルとなっている。

そう考えると、今回、レイク・メイゴッグの湖面にこれほど鮮明な逆さアシニボインを撮影できたことは、単なる偶然ではなく、いくつもの幸運が重なった結果だったのかもしれない。

こうした条件がすべて重なったからこそ、湖面いっぱいにアシニボインが映し出される、あの素晴らしい光景に出会うことができたのである。

14年前の2012年にも同じ場所で逆さアシニボインを撮影し、今回もまた同じような景色に出会えたことを考えると、今回の再訪は本当に幸運に恵まれた山旅であった。

写真を改めて見返すことで、現地では気付かなかった水面のわずかな揺らぎや、14年前との違いにも気付くことができた。

今回たまたま撮影することができた、湖面に鮮明に映る「逆さアシニボイン」は、入山できたこと、天候、時間帯、風、水面の状態など、複数の幸運が重なって初めて撮影できた、まさに一期一会の風景だったのだと思う。